

研究科 /Graduate School	言語教育情報研究科
課程 /Program	修士課程
専攻・コース等 /Major, Course	英語教育学コース
入試方式 /Admission Method	外国人留学生入学試験
試験科目 /Exam Subject	学科試験
実施日（試験日） /Exam Date	2025年7月6日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question (試験問題自体を公開しない場合はその理由) (Reasons for not publishing exam questions)	
<p>【採点時の観点】</p> <p>Q1：第二言語習得研究において区別される明示的知識と暗示的知識がどのような知識かを正しく理解している。さらに、明示的知識が暗示的知識になり得るのかという問題に対して自分の考えと根拠を明確に述べている。論述の中で、明示的知識と暗示的知識の具体例、関連理論や仮説、教授法を適切に引用している。</p> <p>Q2：TBLT (Task-Based Learning Teaching) がどのような教授法かを正しく理解し、TBLT の特徴を具体的に述べている。特に、文法指導に対して TBLT はどのようなアプローチをとっているかについて、「意味」と「形式」への注意という観点から明確に述べている。その際、他の教授法を具体的に挙げて、その教授法との比較に基づいて議論している。</p> <p>Q3：イディオムの凍結性という概念を理解し、その程度の差に着目して説明できているかを評価する。提示された例を手がかりに、表現の慣用性や構成要素の自律性、統語的操作の可否などの観点から凍結性を捉え、表現間の違いを対比的に論じているかを見る。また、イディオムと自由な語結合との連続性や中間的性質に触れながら、概念を適切な用語で整理して説明しているかを重視する。</p> <p>【出題意図】</p> <p>英語教育学・英語学の基本的な概念の理解や主な関連理論の知識を問う。また、英語教育や英語学習の具体的な実践の場において、それらの概念や理論をどのように適用できるかを考察する力を問う。</p>	

研究科 /Graduate School	言語教育情報研究科
課程 /Program	修士課程
専攻・コース等 /Major, Course	言語学・コミュニケーション表現学コース
入試方式 /Admission Method	外国人留学生入学試験
試験科目 /Exam Subject	学科試験
実施日（試験日） /Exam Date	2025年7月6日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question (試験問題自体を公開しない場合はその理由) (Reasons for not publishing exam questions)	
<p>【採点時の観点】</p> <p>問Ⅰ． 提示された言語事実から、適切な一般化を導くことができるかどうかを問う問題である。まず、「何も」の生起環境に着目し、どのような文タイプに現れることができるのかを理解する必要がある。そのうえで、単に文タイプを区別するだけでは不十分であることに気づけるか、さらに、そこから最初に導いた一般化をどのように精密化できるのかを見ることを目的としている。</p> <p>問Ⅱ． イディオムの凍結性という概念を理解し、その程度の差に着目して説明できているかを評価する。提示された例を手がかりに、表現の慣用性や構成要素の自律性、統語的操作の可否などの観点から凍結性を捉え、表現間の違いを対比的に論じているかを見る。また、イディオムと自由な語結合との連続性や中間的性質に触れながら、概念を適切な用語で整理して説明しているかを重視する。</p> <p>問Ⅲ． 認知言語学の基本となる「関係(relation)」について問う問題である。「なる」構文について言語学的知識がある方が望ましいが、少なくとも問題文中の例文が字義通りの意味では真でないことに気がつけば回答は難しくはないはずである。その関係を「なる」構文と説得的に結び付けられればなお良い。</p> <p>問Ⅳ． 詩の形式 (forme)と内容 (fond)が有機的に構成されているということについてのテキスト分析能力とセンスを問うものである。詩のテキストが具体的にどのような形式的特徴をもっていてそれがどのように詩の内容と関わるのかについて、①具体的なテキストの抽出 ②その形式的特徴の分析 ③それを踏まえた内容分析を、適切な文章で他者に説得的に伝える質的なテキスト分析力を主な採点基準とした。</p>	

【出題意図】

言語学やコミュニケーション研究の諸領域にまたがるテーマを通じて、言語や社会的相互行為を多角的に捉え、理論と事例を結びつけて論述する力を評価するものである。基礎知識に加え、具体例を適切に観察・記述する力、応用的思考力・分析力・表現力も重視している。

研究科 /Graduate School	言語教育情報研究科
課程 /Program	修士課程
専攻・コース等 /Major, Course	英語教育学コース
入試方式 /Admission Method	外国人留学生入学試験
試験科目 /Exam Subject	学科試験
実施日（試験日） /Exam Date	2025年9月13日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question (試験問題自体を公開しない場合はその理由) (Reasons for not publishing exam questions)	
<p>【採点時の観点】</p> <p>Q1：第二言語習得研究における WTC (willing to communicate) の概念を、影響する具体的要因を挙げながら正しく説明している。学習者にとっての WTC の重要性について、学習者要因や学習環境、言語技能などの観点から論じている。なぜ WTC を高めることが第二言語の習得につながるのかを明確に説明している。</p> <p>Q2：コロケーションやイディオムといった慣用的表現が、第二言語習得になぜ重要なのかという問題に対して、言語処理や自然な言語使用、言語技能などの観点から明確に論じている。さらに、慣用的表現の習得を促すと考えられる指導方法やタスク、活動について具体的に説明している。コロケーションやイディオムの具体例や関連理論を適切に挙げながら論じている。</p> <p>Q3：まず eye の多義性を身体部位としての基本義から整理し、その意味拡張を体系的に捉えているかを見る。次に、比喩的・抽象的用法を具体例とともに示し、それらが基本義とどのような概念的関係（類似・機能拡張など）で結びつくかを説明できているかを評価する。また、語の意味が個別の例の羅列にとどまらず、意味拡張の仕組みや広がりとして論理的に論じられているか、説明の一貫性・具体性を判断する。</p> <p>【出題意図】</p> <p>英語教育学・英語学の基本的な概念の理解や主な関連理論の知識を問う。また、英語教育や英語学習の具体的な実践の場において、それらの概念や理論をどのように適用できるかを考察する力を問う。</p>	

研究科 /Graduate School	言語教育情報研究科
課程 /Program	修士課程
専攻・コース等 /Major, Course	日本語教育学コース
入試方式 /Admission Method	一般、社会人（一般）、外国人留学生入学試験
試験科目 /Exam Subject	学科試験
実施日（試験日） /Exam Date	2025年9月13日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question (試験問題自体を公開しない場合はその理由) (Reasons for not publishing exam questions)	
<p>【採点時の観点】</p> <p>問Ⅰ：それぞれの例文中の「タ形」の用法に関して、①「完了」、「結果の継続」、「瞬間動詞」、「状態動詞」、「テイル形」など、適切な用語を説明に用いているかどうか。②テンスとアスペクトの違い、および、動詞の属性の違いを適切に踏まえているかどうか。③言い換えの可能性に言及しているかどうか。④文脈も含め、文全体としての正確な理解がともなっているかどうか。⑤全体として論理的な説明になっているかどうか。</p> <p>問Ⅱ：「総括的評価」と「パフォーマンス評価」の違いを問う。前者は一定期間の学習成果の評定を目的とし、主に中級の語彙・文法知識等を評価対象とし、客観形式が主となる。出題範囲の明示化と採点基準の統一が求められる。後者は、学んだ知識の実際の文脈での活用を評価し、評価対象には口頭発表／意見文等における言語遂行能力等が挙げられ、ルーブリックを用いた観察評価が一般的である。複数評価者間の妥当性の追求が求められる。</p> <p>問Ⅲ：コロケーション（連語）が、第二言語習得になぜ重要なのかという問題に対して、言語処理や自然な言語使用、言語技能などの観点から明確に論じている。さらに、コロケーションの習得を促すと考えられる指導方法やタスク、活動について具体的に説明している。コロケーションの具体例や関連理論を適切に挙げながら論じている。</p> <p>問Ⅳ：まず「目」の多義性を身体部位としての基本義から整理し、その意味拡張を体系的に捉えているかを見る。次に、比喩的・抽象的用法を具体例とともに示し、それらが基本義とどのような概念的関係（類似・機能拡張など）で結びつくかを説明できているかを評価する。また、語の意味が個別の例の羅列にとどまらず、意味拡張の仕組みや広がりとして論理的に論じられているか、説明の一貫性・具体性を判断する。</p>	

【出題意図】

本研究科のアドミッションポリシーに沿い、本研究科で研究を行うために必要な言語能力および日本語教育学の基本的知識を持ち、この専門分野において研究を行える、または行えるようになる資質（問題の発見能力、論理的考察力、情報整理能力など）を有しているかどうかを判断できる出題をする。

研究科 /Graduate School	言語教育情報研究科
課程 /Program	修士課程
専攻・コース等 /Major, Course	言語学・コミュニケーション表現学コース
入試方式 /Admission Method	外国人留学生入学試験
試験科目 /Exam Subject	学科試験
実施日（試験日） /Exam Date	2025年9月13日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question (試験問題自体を公開しない場合はその理由) (Reasons for not publishing exam questions)	
<p>【採点時の観点】</p> <p>問Ⅰ. まず eye の多義性を身体部位としての基本義から整理し、その意味拡張を体系的に捉えているかを見る。次に、比喩的・抽象的用法を具体例とともに示し、それらが基本義とどのような概念的関係（類似・機能拡張など）で結びつくかを説明できているかを評価する。また、語の意味が個別の例の羅列にとどまらず、意味拡張の仕組みや広がりとして論理的に論じられているか、説明の一貫性・具体性を判断する。</p> <p>問Ⅱ. 会話分析の重要概念のひとつである修復についての基本的理解を確かめる問題である。聞き取りのトラブル源、すなわち店名が聞き取れていないという問題が01行目の発話にあったことが、02行目の他者修復開始により理解可能になった上で、04行目で自己修復実行が行われることで、楠田は店名を理解できたことが指摘できればよい。</p> <p>問Ⅲ. 提示された言語事実から、適切な一般化を導くことができるかどうかを問う問題である。「何」と「なぜ」という wh 句が疑問文の解釈においてどのような振る舞いの差を示すのかを指摘する必要がある。各疑問文に対する回答の容認度を手がかりとして、項と付加詞の振る舞いの違いや、線形順序だけからは捉えられない事実に気づくことができるかを見ることを目的としている。</p> <p>問Ⅳ. 文芸に用いられている比喩表現を具体的に取り出して、それがどのような種類の比喩でどのような仕掛けで詩の内容を豊かにしたり読者の内容理解を支えたりしているのか。それを、テキストの質的な分析をもとに行うセンスと能力を試す問題である。詩の該当箇所を取り出せるかということとその仕組みを説明できるかということの2段階が主な評価指標となる。</p>	

【出題意図】

言語学やコミュニケーション研究の諸領域にまたがるテーマを通じて、言語や社会的相互行為を多角的に捉え、理論と事例を結びつけて論述する力を評価するものである。基礎知識に加え、具体例を適切に観察・記述する力、応用的思考力・分析力・表現力も重視している。

研究科 /Graduate School	言語教育情報研究科
課程 /Program	修士課程
専攻・コース等 /Major, Course	英語教育学コース
入試方式 /Admission Method	外国人留学生入学試験
試験科目 /Exam Subject	学科試験
実施日（試験日） /Exam Date	2026年2月7日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question (試験問題自体を公開しない場合はその理由) (Reasons for not publishing exam questions)	
<p>【採点時の観点】</p> <p>Q1：意味中心のコミュニケーション活動の中で言語形式にも注意を向けさせる Focus on Form (FonF) のアプローチについて正しく理解している。文法項目を順に学ぶ伝統的な文法中心の学習と比較して、それぞれのアプローチの違いを適切に述べている。その比較を通して、FonF の利点と難点を、学習者の習得と教師の指導の両側面から明確に説明している。</p> <p>Q2：臨界期仮説の基本的概念を正しく理解している。この仮説に対して様々な立場があることを踏まえ、第二言語はできるだけ若いうちに学び始めるのがよいという考えについての自身の意見を、教育面と学習面の両面から述べている。具体的な言語技能や学習環境、学習者要因などとの関係について、関連する理論や根拠を適切に引用して説明している。</p> <p>Q3：まず自動詞の多様性を意味的・統語的特徴の観点から体系的に捉え、分類原理を明示できているかが重要である。具体例はその理解を裏付ける素材として用い、単なる羅列に終わらず、文の受容可能性や構文パターンの違いを通して、各分類間の概念的関係や制約の論理を示しているかを評価する。さらに、意図性・存在・運動などの軸に沿った抽象的な分類枠を構築し、個別例をその枠内で説明できているか、全体の一貫性と論理的整合性を重視する。</p> <p>【出題意図】</p> <p>英語教育学・英語学の基本的な概念の理解や主な関連理論の知識を問う。また、英語教育や英語学習の具体的な実践の場において、それらの概念や理論をどのように適用できるかを考察する力を問う。</p>	

研究科 /Graduate School	言語教育情報研究科
課程 /Program	修士課程
専攻・コース等 /Major, Course	日本語教育学コース
入試方式 /Admission Method	一般、外国人留学生、飛び級入学試験
試験科目 /Exam Subject	学科試験
実施日（試験日） /Exam Date	2026年2月7日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question (試験問題自体を公開しない場合はその理由) (Reasons for not publishing exam questions)	
<p>【採点時の観点】</p> <p>問Ⅰ：文法現象の背景にある文法構造を指摘することを求める問題である。「人々」という表現の誤用の要因について分析させる問題である。Aは、「人々」の誤用例を把握し、適切な表現が何か述べていることが採点の基準になる。Bは、「人々」の誤用の背景にある要因について、具体例に則して述べているかどうか採点の基準になる。問題文の例だけでなく、自ら考えた例に言及して説明できればなお良い。</p> <p>問Ⅱ：自律学習とはどんなことか、自習や独学との違いは何かについて明確に述べられている。また、日本語学習において自律性が重要である理由について計2点以上の観点から明確に説明できている。そして、学習者の自律性や自律学習を促すために具体的にどのような工夫、または支援ができるのかについて計2点以上の異なる観点を挙げ、十分に説明できている。</p> <p>問Ⅲ：自動詞の意味的・統語的特徴を正確に把握し、それに基づいて例文を分類できているかどうかを見る。具体的には、動作や状態の主体性、意図性の有無、発生地点や到達点などの空間的・時間的関係の違いを理解しているかを重視する。また、文の文法性・非文法性を判断し、その理由を動詞の性質と結びつけて論理的に説明できているかを評価することで、動詞の働きや役割に関する理解の深さを見る。</p> <p>問Ⅳ：臨界期仮説の基本的概念を正しく理解している。この仮説に対して様々な立場があることを踏まえ、第二言語はできるだけ若いうちに学び始めるのがよいという考えについて、教育面と学習面の両面から論じている。具体的な言語技能や学習環境、学習者要因などとの関係について、関連する理論や根拠を適切に引用して説明している。</p>	

【出題意図】

本研究科のアドミッションポリシーに沿い、本研究科で研究を行うために必要な言語能力および日本語教育学の基本的知識を持ち、この専門分野において研究を行える、または行えるようになる資質（問題の発見能力、論理的考察力、情報整理能力など）を有しているかどうかを判断できる出題をする。

研究科 /Graduate School	言語教育情報研究科
課程 /Program	修士課程
専攻・コース等 /Major, Course	言語学・コミュニケーション表現学コース
入試方式 /Admission Method	一般、外国人留学生入学試験
試験科目 /Exam Subject	学科試験
実施日（試験日） /Exam Date	2026年2月7日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question (試験問題自体を公開しない場合はその理由) (Reasons for not publishing exam questions)	
<p>【採点時の観点】</p> <p>問Ⅰ. 提示された言語事実から、適切な一般化を導くことができるかどうかを問う問題である。動名詞（VN）が「VNする」および「VNをする」という形式をとるのはどのような環境においてなのか、VNとその前部要素との関係に注目しながら一般化を導く必要がある。そのうえで、その一般化を補強するVNのデータを適切に提示できているかどうかを見ることを目的としている。</p> <p>問Ⅱ. まず自動詞の多様性を意味的・統語的特徴の観点から体系的に捉え、分類原理を明示できているかが重要である。具体例はその理解を裏付ける素材として用い、単なる羅列に終わらず、文の受容可能性や構文パターンの違いを通して、各分類間の概念的関係や制約の論理を示しているかを評価する。さらに、意図性・存在・運動などの軸に沿った抽象的な分類枠を構築し、個別例をその枠内で説明できているか、全体の一貫性と論理的整合性を重視する。</p> <p>問Ⅲ. コミュニケーション学や相互行為分析の専門知識が無くても日常的な相互行為場面に対する想像力によって回答可能な問題である。4人席に3人の参与者という設定、食事という会話以外の活動をしながらの雑談場面、視線の宛て先の多様性等を考慮して、状況と振る舞いの可能性をどこまで記述すべきかをしっかりと考える必要がある。採点においては記述の具体性と状況のタイプ分けについて特に評価している。</p> <p>問Ⅳ. 個人の意思では統御できない世界的災禍と表現がどのような関わりを持つかということについて、何らかの具体的な表現と関連づけて考えていることを問う問題である。課題文は直近の世界的災禍のコロナ禍を題材に語るものであるが、事例に取り上げる災禍は、20世紀の戦争を含むさまざまな戦争や恒常的に各地で起きる自然災害とそれが表現に与えたものでよい。事例を出せることと関係性を説明できることが重要。</p>	

【出題意図】

言語学やコミュニケーション研究の諸領域にまたがるテーマを通じて、言語や社会的相互行為を多角的に捉え、理論と事例を結びつけて論述する力を評価するものである。基礎知識に加え、具体例を適切に観察・記述する力、応用的思考力・分析力・表現力も重視している。